

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成23年度第2回（臨時会）

署名人 添石幸伸

委員長 城間勝

開催日時 平成23年10月31日（月）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時30分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 城間勝委員長、金城眞徳委員、添石幸伸委員、喜久里美也子委員、城間幹子教育長

議事日程

議案第34号 那覇市立学校適正配置計画（統合・分離）の決定について（総務課）

出席職員

【生涯学習部】新城和範部長、屋良朝秀副部長

（総務課）東恩納隆栄課長、仲程直毅副参事、伊禮弘匡副参事

當間千明主査、大城昭子主任主事

【学校教育部】盛島明秀部長、宮内勇人副部長

傍聴者 1名

会議録作成 （総務課）仲間稔主査

城間委員長 ただいまから平成23年度第2回教育委員会会議臨時会を開催いたします。
本日の会議録署名は添石委員にお願いいたします。議案第34号「那覇市立学校
適正配置計画（統合・分離）の決定について」について説明をお願いします。

新城部長 提案理由説明

仲程副参事 説明（修正部分の説明）

新城部長 ただいまご提案の内容について説明しましたが、大きな方針の変更点としては、これまでの協議でも検討いただきましたが、開校の年月日を平成25年4月1日から平成26年4月1日に1年間変更するということです。このことについての説明ですが、これまで慎重に検討したことでもあります。良い学校づくりをする必要があるため1年間の時間猶予をいただき時間をかけて、ソフト面、ハード面の準備をしたいと思っています。内容については今後も関係部局とも調整をしてみたいと思いますが、できる限り教育委員会として統合新校が新たに通う子ども達にとってより良い教育環境になるように努めたいと思っています。これまでこの提案に当たりまして、地域住民、保護者との話し合いということもあります。これまでメディアでも報道されていますが改めて私のほうから整理をして説明したいと思います。まず、この統合に関して、適正規模とはどういったことだろうというご意見も重ねています。教育委員会が提示する適正規模は12学級から24学級になりますが、その考え方については、すべての関係者の方に同意を得ているということではありません。素案についてはこれまで保護者をはじめ関係者へ説明会など十数回開いております。「教育委員会は統合がいいだろう」「結局は私たちの意見は聞く耳を持たないのでは」という一部批判があることは承知しております。しかしながら教育委員会としては小規模校の持つよさは認めつつも、厳しい実社会へ巣立っていく子ども達の将来を考えたときに社会性を育成し、生きる力をより育むための適正な学校規模を整える必要がある、これが教育行政の責任だと認識しております。今回の統合案は平成14年6月の那覇市立学校適正規模等審議会の設置、諮問から今日まで関係者を含め多くの時間と検討を重ねてきております。その結果であって、子ども達の教育環境を改善する観点から適切な計画案と認識している次第です。それと、説明会などで意見がより強く出たのは、統合後の跡地利用についてどう考えるかということでした。学校統合後の跡地利用については統合後の地域振興の観点から具体的な施策が示されていないというご指摘もありました。学校は地域活動の核です。それが無くなった後の整備計画が示されていないことへの疑問として教育委員会としてもこのことは真摯に受け止めて今後の施策に当たりたいと思っています。教育委員会がその本義として子ども達の教育環境の改善の観点から学校統合の必要性を強調しています。一方子ども達の教育には地域との結びつきなくしては成り立たないとの認識をもとに、今後これまで築かれたコミュニティを踏まえ、新たな地域コミュニティの形成に向けて行政として関係部署との綿密な連携を図る必要があると強調したいと思います。跡地利用については、今後この地域の振興や本市の全体のまちづくりの観点からも近いうちに所管部署の説明の機会が得られるよう期

待したいと思っております。それから防災対策についての対応への指摘がありました。防災対策については去る3月11日に発生した東日本大震災を契機に保護者の方から防災への懸念が示されております。教育委員会は統合新校を始め、若狭小や曙小、古蔵中、那覇中、上山中など海岸沿いや河川沿いの学校の防災について、災害の種類や規模等を想定した具体的な実効性ある対策を講ずる必要があるとその旨の説明も行ってきております。本市においても沖縄県との整合を図りながら地域防災計画の見直しに着手することになっております。それから子ども達の不安解消についてです。今回の統合にあたっていろいろ情報が流れています、子ども達が不安がっているのではということについては、学校統合の計画案が表に出て統合への不安、自分達の学校が無くなること、あるいは新しい学校のことなどについて子ども達に動揺が広がっているという指摘もあります。これについては教育委員会は適正規模の学校づくりが、主人公は子ども達ということをやより大切に考えた結果としております。そのことを保護者の皆様をお願いするとともに、統合前には両校の子ども達の交流事業を行い、統合した後は必要に応じてヘルパーの派遣など考えていきたいという風に説明しています。それから存続させる会の署名活動についてもいろいろありました。これは前回の全体説明会の中で児童が意見を出しております。この署名活動に参加したこと、このことについてどう思うのですかという非常に素朴な質問でしたが、教育委員会としてはこのことは重く受け止めたいと思います、これを踏まえて良い学校づくりをしたいという風に答えております。以上これまでの説明会、話し合いの中で指摘されましたことについて大要の状況を報告します。以上です。

城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 3月11日の震災後、地域の皆さん方がすごく気にしているところがあり、そういう中で震災対応には地理的に久茂地小学校の方が前島よりいいという話もいっぱい聞かれましたし、また、那覇市でも5階建て以上のビルと契約を結んだというのも発表されておりましたし、教育委員会の方でまだまだ心配なことがいっぱいあると思うので、そういったところの考えはどうでしょうか。

新城部長 防災対策についてはとても大きな論点になっています。いま委員からご指摘がありましたが、市全体としてはこれは改めて地域防災計画を作り直すということがあります。これも県との連携を取りながらの計画の改訂になってくるとは思いますが、それはそれとして教育委員会が具体的にどのような方法を取るかということについては、ハードの面での非難ビルの確保が必要でないかと思っています。これについては先だっの庁議の場でも出たのですが、これが個々の部署が必要なことであればそれぞれ対応してもらって、例えば私たちとしてはこのビルが本当に使えるビルかどうか、ビルの構造、あるいは耐震基準を満たしているか、そういったことも含めて具体的に図って、そのことについて総務部と全庁的な形で対応していくということが一つあります。防災というのはハード面だけではなくて、避難訓練や防災教育のソフト面が非常に重要だと思う。そういった面でも今後具体的に本当に実効性がある方法はどういったこ

とかというのは大きな課題だと思っています。しかしこのことについては防災に対する認識も非常に高まってきていますので関係者の方々にご協力をいただけるのだと思っています。

盛島部長

1日24時間のうち8時間ぐらいは学校で過ごすわけですから、それに対する防災体制の確立、防災教育は大変重要です。残り3分の2は学校以外で過ごす状況もありますので、子ども達に重要なことは防災教育だと思います。防災教育をいかに徹底するか、これは学校教育の指導の中で十分やっていけることですので、例えば全体的な防災訓練もそうです。学級指導で防災教育、防災指導をすること。道徳教育では生命尊重という項目がありますので、その中で重点的に防災と絡んだ道徳教育をしっかりとやって、学校では総合学習で地域に応じた、例えば防災に関する総合的な取り組み、学校教育観点のトータルで防災教育をしっかりとやっていくことが非常に重要だと思います。こういう状況にあってはこういう避難をする、逃げ方をするんだということを子供達にしっかりと指導していくこと、これが子供達に自己防衛能力をつけること、危機回避能力をつけることの最大の指導だと思っています。そういったことで震災を契機にそういう防災教育というのが、これは統合新校に限らずすべての幼小中学校で確立していかないといけないことだと思っています。文科省でも防災教育重点指定校というのを全国で指定したいという計画もありますので、そういうのもしっかりと那覇市でも指定の依頼があればしっかりと受けて、あるいは県がそういうのを受けるという方向性があれば那覇市はしっかりと意思を示して、重点的な防災に関する研究というのも進めていきたいと思っています。自己防衛能力、危機回避能力をつける最大の指導というのは私は防災教育だと思っていますので、それをしっかりと充実させたいと思います。

新城部長

防災対策について、現在、銘苅小学校にしかないですが、地域防災組織というのがあります。これを次年度は那覇市としては2箇所ほどその地域を指定をして立ち上げたいという考え方を持っています。そのうちの1つを統合新校の地域に指定してもらえように働きかけて実現したいと思っています。

添石委員

度重なる会議を重ねてきたわけですが、個人的な意見を申しませんが、先週のテレビ報道でもありましたが、日本の人口が減少に入っていく。現実問題として我々が受け入れなければならないのは少子高齢化の問題であると思います。そしてこの適正配置計画に関する理論というのはまさしく子ども達の学校の教育の現場をどうするかという教育委員会の課題として一番掲げてきたことだと思っています。先ほどの説明があり、地域の方々の今後のコミュニティ作りに対する不安であったり、防災の部分であったり、いろいろな問題があると思いますが、ぜひ、子ども達の教育環境にこれから先も全力投球していただくということを前提に進めていただきたいと思います。この後、審議に諮ると思いますが、私は今後とも地域づくりに関しては主体となる関係部局と協力をとって、しっかりと地域の方々の不安を取り除いていただいて進めてほしいと思います。この適正配置計画に関して、私は賛成をさせていただきたいと思い

ます。先ほど説明があったことに関しても度重なる会議の場で我々も質問させていただきまし、それに対して一つ一つ丁寧に説明いただきましたので、それを真摯に私どもも受け入れていきたいと思います。

城間委員長 平成22年10月に素案が提案されて事務局からいろいろ説明を受けました。その後も引き続き審議して今日まで至っていますが、私たちが素案に賛成したのは、子ども達のより良い成長のためには社会性や協調性を体験的に身に付けさせるためには、適正な規模の数の児童生徒がいた方が良いという教育の一般論から適正とは何かと言うと、12から24学級が適正だと言われていましたので、それが素案に入っていたから、地域の方々のご意見を丁寧に聞こうということで約1年審議し、説明会等を開いてきました。本日、計画の一部修正で提案されまして、これまで説明会参加者からの不安、質問、意見を踏まえた事務局からの丁寧な説明等の確認がありましたが、最終的な計画の決定ということで本日臨時会を開催していますが、これだけは言っておきたいということがありましたらお願いします。

金城委員 私は教育行政の立場から今回の久茂地小、前島小の分離統合の問題については、結論から言いますと賛成であります。両校の数回におよぶ説明会の中で常に言い続けてきたのが子ども達の教育環境を整えて、那覇市の子ども達が等しく学校教育が受けられるようにしたいという大きな柱がありました。また複数学級にすることによって子ども達が切磋琢磨するし、先生方も教材研究にもその方が望ましいという話も聞きましたし、またそのとおりだと思います。先だって大名小、城北小の運動会にも参加して来ました。その中で大名小は1学級の本当に少ない児童数で、そういう中で大名小と城北小を比較すると確かに3学級、5学級あるクラスの子ども達との運動会のやり方、方法を見ても複数学級の良さを感じました。そういう中でデメリットというものも結構あるような気がします。歴史のある学校を無くすのかとか、地域のコミュニティが無くなることは協働のまちづくりに反するのではないかという話もありました。久茂地の盛鶴保存会という旗頭がありますが、そこと私ども地域は兄弟の旗頭ということでお互い交流があります。そういう中で盛鶴保存会の旗頭が久茂地小学校を基点にして練習したり、保管したり、子ども達と一緒にの旗頭行列、パレードにも参加していることも見ていますし、盛鶴保存会の皆さんが不安に思うのはそういったところからあるのかなと、地域の皆さんのコミュニティが無くなるのはちょっと寂しいということもあると思います。また将来の跡地利用が明確でないために繁華街化するのではないかという心配の話もありましたし、震災の地理的なことの話も、また少人数学級にも利点がいっぱいあるのではないかという話もあり、それも否定するものではありません。市長が直接説明会に参加すべきではないかとか、まだまだ明確な議論が必要だなと思っています。それを解決するには、やはり疑問や質問に徹底的に答えることが必要じゃないかと思ひましたし、繰り返し根気強く説明すると皆さん方にはおのずと良い判断を下してくれるものと思っております。

城間委員長 他よろしいでしょうか。議案第34号「那覇市立学校適正配置計画（統合・分離）

の決定について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

城間委員長 議案第34号「那覇市立学校適正配置計画（統合・分離）の決定について」議決確定します。少し申し上げたいことがあります。1年間延期して2カ年間になりましたけど、ハード面、ソフト面の充実はもとより、いま金城委員からもありました地域の保護者、子ども達が抱えている不安など解消できるようにしっかりした取り組みを2カ年間でやってほしいと、ぜひお願いしたいと思っております。以上をもちまして、平成23年度第2回教育委員会会議臨時会を終了します。